

# サーサナ

第54号 仏暦2564（西暦2021）年11月20日

---

## 極楽浄土はどこにあるのか

『補陀落渡海記』という、井上靖の書いた短編小説があります。

補陀落（ふだらく）とは、サンスクリット語の「ポータラカ」に由来し、観音菩薩の住む世界で、南海浄土ともいわれます（ちなみに、チベット・ラサのポタラ宮もここに由来します）。浄土真宗に親しまれた皆様は、浄土といえは西方極楽浄土を連想すると思いますが、実は浄土にも色々あり、南海浄土もあれば、東方瑠璃浄土（教主・薬師如来）や密厳浄土（教主・大日如来）など、様々です。

日本では、観音信仰の普及とともに、熊野や日光が補陀落になぞらえられて巡礼者を集め、中世には補陀落渡海といって、那智勝浦から熊野灘へ小舟を漕ぎ出して補陀落を目指す、という人々（主に補陀落寺住職）が現れました。記録によれば、およそ20回の渡航があったそうです。

井上靖の小説では、補陀落寺の住職・金光坊が、以前の住職らの先例によって、心ならずも補陀落渡海を実行せざるを得ない状況に追い込まれ、本当に補陀落にまでたどり着けるものかどうかを思い悩み、「自分の眼には補陀落がありありと見える」と言っていた三代前の住職を思い出しつつも、どうやっても自分には見えないことに絶望します。しかし渡海直前、「補陀落が見える」と言っていた住職の眼光が異様で狂気じみていたことを改めて思い出し、渡海船から脱出を図るも、浜辺に打ち上げられて、弟子の僧侶らによって強制的に再び渡海船に押し込められ、脱出できないようにして海へと押し出される、そんな話でした。

補陀落浄土が物理的に存在するという中世的な信仰は、その後だんだんと薄れていきます。実際江戸時代には、生身の人間が渡海船に乗ることはなくなり、死者の遺体を乗せて水葬することを補陀落渡海と呼ぶようになりました。

極楽浄土が西方に存在する、という考え方も、今日ではそれを信じる人はほ

とんどいないでしょう。現在地から西へどんどん進んでいっても、地球を一周して元に戻るだけのことです。

では極楽浄土はどこにあるのでしょうか。これについては古くから「己心の弥陀・唯心の浄土」という考え方があり、常に議論の的になってきました。これは、阿弥陀仏も極楽浄土も自己の心に内在する本来清浄心のことである、というもので、天台宗・禅宗などの説です。観無量寿経にも「汝等心に仏を想う時、この心すなわちこれ三十二相・八十随形好なり。この心、作仏す。この心これ仏なり。諸仏正遍知海は心想より生ず」とありますから、現代人には受けがいい説といえます。

しかしながら、自分の心を内観してみても本来清浄心は見出せません。禅宗では、そこから修行して心を磨く重要性を訴えます。しかし浄土教では清浄心は凡夫にはなく、阿弥陀仏の働きによって与えられる、と言います。

清沢満之という明治の仏教者（大谷大学初代学長）は、如来と自己との関係をひたすらに問い続け、学生たちに「如来があるから信ずるのか？それとも信じなければ解決がつかない問題や要求を私たち人間が抱えているから、それに応えて如来は現れてくださるのか？」という考究課題を与えたそうです。何だか「卵が先か、鶏が先か」みたいな話です。が、清沢満之の弟子であった曾我量深（大谷大学第17代学長）は「我如来を信ずるが故に如来まします也」としました。

清沢満之にしても親鸞聖人にしても、阿弥陀如来や極楽浄土が自己とは無関係に、いわば客観的に存在するかどうか、ということは全く問題ではなく、常に自身のあり方を問題としていました。従って、如来あるいは浄土は存在するものではなく、求め続けるもの、といえましょう。



## ネットで仏教（1） - 真宗教団連合

最近、インターネットであらゆることを学んだり知ったりできます。色々ある中で、私（住職）がおすすめるサイトを順次紹介していきましょう。

まずは 真宗教団連合 です。<<http://www.shin.gr.jp>>

いわゆる真宗十派といって、本願寺派（西本願寺）・大谷派（東本願寺）・高田派（専修寺）など、10の教団が加盟している連合組織です。

派が異なると、同じ正信偈も節が違うとか、作法が違うとか、なかなか統一した儀式ができにくいのですが、教団連合では共同で「和訳正信偈」を制定し、分かりやすい旋律で唱和できるようにしました。また「真宗宗歌」も教団連合によって作られました。社会的な問題に対しては、共同声明を発信しています。

## 法要行事について

各法要・行事に必要な勤行本は、お持ちでない場合は当寺より進呈または貸与いたします。念珠は必ずご持参ください。また肩衣の着用を推奨します。



### 十二月 成道会（じょうどうえ）

約2500年前、北インドでお釈迦様がさとりを開かれ仏陀となりました。12月8日、35歳のときであったと伝えられています。お釈迦様のさとりから仏教は始まりました。私たち仏教徒にとって最も神聖な記念日です。

- ❖ 日 時 12月8日（水）午後1時～2時半【午後0時半から受付】
- ❖ 内 容 勤行（和文仏教聖典読誦・正信偈同朋奉讃）・法話
- ❖ 持ち物 『和文仏教聖典』『正信偈同朋奉讃』（または『真宗大谷派勤行集』）
- ❖ 記念品 み仏ぬり絵

### 十二月 門徒総会

上記成道会に引き続き、門徒総会を開催します。この一年間の活動報告及び今後の活動計画についての話し合いをします。皆さまのご意見をお聞かせ下さい。（忘年会はございません）

### 一月 修正会（しゅしょうえ）

修正会とは、新年を祝い、また求道の決意を新たにするための法要です。家族揃って、初詣を兼ねて本堂にご参拝ください。

- ❖ 日 時 1月1日（土）午前10時～11時【午前9時半から受付】
- ❖ 内 容 勤行（嘆仏偈・和訳正信偈）、年頭法話
- ❖ 持ち物 『和訳正信偈』『真宗大谷派勤行集』
- ❖ 記念品 鏡餅（お子さんには菓子袋）

### 永代経懇志お礼

下記の方から永代経懇志を頂戴いたしました。ここにあらためてお礼申し上げますと共に、今後とも法義相続されますことを願いたします。

9月29日 齒黒様[緑区] 10万円

## 年忌法要

来年（2022年）は没年が下記に相当する方の年忌になります。

1 周忌	2021年（令和3年）	< 27回忌 >	1996年（平成8年）
3 回忌	2020年（令和2年）	33回忌	1990年（平成2年）
7 回忌	2016年（平成28年）	< 37回忌 >	1986年（昭和61年）
13 回忌	2010年（平成22年）	50回忌	1973年（昭和48年）
17 回忌	2006年（平成18年）	< 70回忌 >	1953年（昭和28年）
< 23回忌 >	2000年（平成12年）	100回忌	1923年（大正12年）
25 回忌	1998年（平成10年）		

大谷派儀式条例に定める年忌は、1・3・7・13・17・25・33・50・100、およびそれ以後100年毎、となります。しかし地域によっては < > 内やそれ以外の年忌法要を勤める場合があります。

- ❖ 御自宅で開催の場合、駐車場の確保をお願いします。
- ❖ 僧侶が袈裟衣を着替えるためのスペースを用意して下さい。
- ❖ 勤行本（正信偈同朋奉讃）を人数分用意してください。足りない場合は当寺に必要部数をお伝え下さい。
- ❖ 開催の前日までに、仏具のおみがき、お内仏の清掃をしましょう。
- ❖ 教心寺本堂で開催の場合、使用料として1万円をお願いしています。

## 会費の納入について

会費の期限切れの方は、更新をお願いします。皆様の納入年度は封筒宛名シール下部に記されています。1年で1000円ですが、事務軽減のため、複数年を納入していただくとたすかります。

郵便振替00880-4-68473「教心寺」、または現金手渡しで。

---

真宗大谷派 教心寺（名古屋教区第30組）

編集発行人 釋眞弑（山口眞一）

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：801-1381 F A X：807-1198 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <http://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>

---